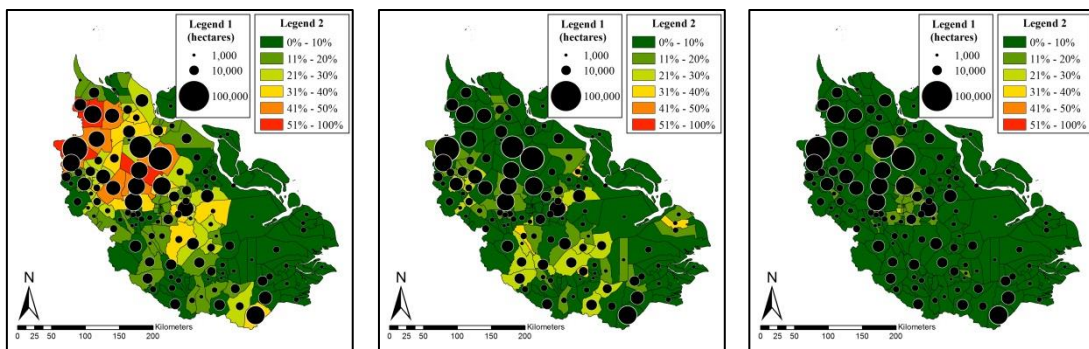


アジア歴史 GIS 学会 (ANGSI 2015) に参加して

広域システム科学系 (博士課程 2 年)

小泉佑介

今回、2015 年度「博士課程学生のための国際研究集会渡航助成」を利用して、The 4th International Conference on Asian Network for GIS-based Historical Studies (ANGSI 2015) に参加した。本国際会議は、アジアにおける GIS を利用した歴史研究者のコンソーシアムといった位置づけで 2012 年から毎年開催されており、3 日間を通して 30 近くの報告がおこなわれた。報告者は歴史学が専門ではないものの、GIS を用いた地域研究の可能性を提示するという趣旨の下で自身の研究発表をおこなった。具体的には、インドネシアにおける小規模なアブラヤシ栽培を対象として、州レベルでの人口センサスデータと作物統計を用い、国内移住民が大きな役割を担っているという状況を実証的に示した。



※ 上図では、スマトラ島リアウ州における小農によるアブラヤシ栽培面積（黒い円の大ききで示した）と、国内移住民の分布（その割合を緑・黄・赤で示した）を地図で表現し、北スマトラ州からの移住者が集住している地区で小規模なアブラヤシ栽培が拡大していることを提示した。

質疑応答では、移住者のコミュニティが形成された時期を経年的に示すことができれば、移住者拡大のパターンをより明確に示すことができるのではないか、というコメントを頂いた。また、他の報告では、GIS の技術的な取り組みを、いかに人文学や社会科学に応用できるのかといった内容を取り扱っており、報告者自身の研究視野を広げることができた。

さらには、シンガポールやフィリピンの大学から地理学者が参加しており、東南アジアにおける地理学がどのように発展しているのかといったことについて意見を交換することができた。今回の台湾滞在は、実り多き 3 日間であった。

